

# 北海道学習会報告

## ミツバチはなぜ消える！～新農薬ネオニコチノイドの危険性～

理事 中地 重晴

### 北海道で初めてのミツバチ集会を開催

さる9月11日（土）TKR札幌カンファレンスセンターきょうさいサロンで、ネオニコチノイドの問題点を指摘する北海道で初めての学習会を開催しました。

学習会は市民ネットワーク北海道の協力を得て、国民会議と共催という形で呼びかけたところ、北海道の市民が約50名参加され、東京から参加した国民会議のメンバー10名とあわせて、会場は満員となり、熱気のある学習会でした。

立川涼代表理事、ミツバチ農家の藤原誠太さん、黒田洋一郎さん、水野玲子理事の4名がそれぞれの立場からミツバチが消えた理由とネオニコチノイド農薬の危険性を報告され、盛りだくさんの内容で、若干消化不良気味でしたが、北海道の市民の方々にも事態の深刻さを理解していただけたと思います。

北海道はネオニコチノイド農薬の使用量が減少傾向にあるとはいえ、全国最多とのことで、意義のある学習会だったと思います。

以下、学習会の内容を報告します。

### 「生態系と農薬」

まず、最初に、立川涼代表理事から、ダイオキシンや農薬の環境汚染問題について研究してきた経験を元に、専門家や科学者といわれる人たちは多面的な現象の一部しか捉えることができず、起きている事態を正しく説明することができていないという指摘がありました。今年の春、アメリカ化学会で、EPA（アメリカ環境保護局）の化学物質担当者が

講演し、化学物質の毒性評価を21世紀に実施して、解決することは難しいと話しました。なぜなら、毒性評価は多面性があり、サイエンス（科学的評価）だけでなく、ソーシャル（社会的、政策的評価）& エコノミー（経済的評価）も必要だと認識されるようになってきているといいます。今一番重要なのは、予防原則を適用することで、ミツバチの大量死とネオニコチノイド農薬の関連性が予測されるのであれば、ネオニコチノイドを使用しないことを考えるべきではないかと問題が指摘されました。

### ミツバチ大量死とネオニコチノイド農薬 ～岩手県の経験から～

次に、岩手県盛岡市で養蜂業を営んでおられる藤原誠太さんから、岩手県のミツバチ農家の現状報告



をしていただきました。藤原さんは祖父から三代、109年間続く最古のミツバチ養蜂場を運営され、銀座のミツバチプロジェクトの仕掛け人でもあります。

「6年前の8月に突然ミツバチが巣箱で半数が死んでいた。翌日巣箱を50km離れた養蜂場に緊



藤原誠太さん

急移動させた。大量死を岩手県に連絡しても調査に来ない。自分で、専門家、研究者を尋ね、クロチアニジン（商品名ダントツ）が原因だとわかった。なかなか農薬が原因だとは認めてくれない。農薬よりもダニやウイルスが原因だといわれている。

養蜂家は多くが70歳代で、青年大会の参加者は60歳代。このままいくと日本にミツバチ農家がいなくなるという危機感を感じている人が少ない」と話されました。

また、「今は協議会を開き、ミツバチを移動する日を決める。現在よく使われているジノテフラン（商品名スタークル）は半数致死量LD50がダントツの半分になり、ハチは死ななくなったが、スタークルが使われた稲の花粉をミツバチが食べて、冬までにハチがいなくなるということは続いていて、回復のめどが立たない」という深刻な現状を話されました。

講演後、会場に持ち込まれたミツバチの巣箱を参加者に説明し、出席された市民から質問攻めにあう一幕もありました。

## 環境化学物質と子供の脳の発達障害

### —ネオニコチノイド・有機リン農薬の危険性

東京都神経科学総合研究所の黒田洋一郎さんから、環境ホルモンは主に遺伝子発現のかく乱を通じて低濃度で毒性を示すこと、ヒトの脳の発達は、多種類のホルモンや神経伝達物質などの情報伝達化学物質によって調節され、数万の遺伝子の複雑精緻な発現が行われており、それを阻害するものとしての化学物質の危険性について、発達障害という子供の行動異常が多発していることについて、解説されました。

有機リン農薬による発達障害やADHD（注意欠陥多動性障害）の子供が多くなっている現状について話されました。その後、脳神経系の作用について説明され、アセチルコリンを介したコリン作動系の働きについて説明された後で、ミツバチ大量死の原因だとされているネオニコチノイド農薬がニセ神経伝達物質として作用するメカニズムについて説明されました。

ネオニコチノイド農薬は環境汚染化学物質の中でも特に神経系をかく乱し、子供の脳発達を阻害する可能性が高いこと。さらに農薬だけでなく、PCBやビスフェノールA、重金属との複合汚染、複合影響の可能性もある。ミツバチの帰巣学習本能やヒトの学習能力など脳の高次機能は昆虫、哺乳動物の進化の究極の産物であり、進化の過程で限られた生理的化学物質群、遺伝子群から作り上げられた複雑精緻な神経回路は外からの環境汚染化学物質に脆弱で障害されやすいことをわかりやすく説明されました。

### ネオニコチノイド農薬の被害と海外諸国の対応

国民会議理事の水野玲子さんは、現在作成中のリーフレットの内容をわかりやすく紹介されました。日本だけがミツバチの大量死とネオニコチノイド農薬の関係に消極的で、フランスやドイツなど諸外国では使用規制が始まっている。日本でも早急に対策に取り組むべきだという報告をされました。

### さいごに

学習会の最後に江別市議の干場芳子さんから、前日北海道庁を訪問し担当者から説明を受けた内容も含め、北海道におけるミツバチ被害と農薬の現状について報告があり、参加者一同、ネオニコチノイド農薬の使用をどのように減らしていくかが今後の課題であることを確認するとともに、今後も継続して、ミツバチ大量死問題の解決のためには、ネオニコチノイド農薬の使用を削減していくことを申し合わせて集会を終えました。

国民会議としては、今後も北海道の市民の取り組みに協力していきたいと思います。また、11月20日には福岡で学習会を開催する予定です。10月には名古屋で開催されるCOP10でもリーフレットを配布し、全国的に情報提供していきたいと思えます。会員の皆さんの協力をお願いします。